

2019年4月1日

立教大学国際学術研究交流制度  
2018年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	ビジネスデザイン研究科・教授
	氏名	山中 伸彦
受入学部・研究科・研究所		ビジネスデザイン研究科
招へい 研究員	所属・職	Associate Professor, ESCP Europe Business School Madrid Campus 所属機関所在国：スペイン
	氏名	Hector Gonzalez Jimenez
招へい期間		2019年2月25日～2019年3月11日（15日間）
研究経費		329,210円

2. 滞在中の活動

来日および離日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

\*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
2019年2月25日	来日
同日 14時30分～	招聘期間における活動およびスケジュールについての確認、研究についてのディスカッション
2月27日 16時30分～	研究セミナーについての意見交換、共同研究者を交えた研究プロジェクトについてのディスカッション
2月27日 18時30分～20時	研究セミナー “Human-robot interactions and consumer behavior: cross-national analysis of consumer perception and acceptance of social robots” 会場：11号館 A201 教室 参加者数：22名（本学教員、大学院生）

2月28日16時～	共同研究についてのディスカッション、ヨーロッパにおけるビジネススクールの実態についての聞き取り、Executive MBA Program 開発に関する意見交換
3月4日12時15分～ 15時	Executive MBA Program 開発に関する意見交換、共同研究についてのディスカッション、研究ワークショップについてのディスカッション
3月4日15時30分～ 17時	研究ワークショップ “How to publish in an international journal?” 会場：11号館 A302 教室 参加者数：17名（本学教員、大学院生）
3月6日12時30分～ 14時	ヨーロッパにおけるビジネススクール教育についての意見交換、共同研究についてのディスカッション、今後の連携についての意見交換
3月9日11時30分～	Executive MBA Program 開発に向けた連携についての意見交換、今後の共同研究についての意見交換、招聘期間終了に伴う諸事の確認

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

この度の招聘においては、二度にわたって招聘研究員による研究セミナーならびにワークショップを行った。

2月27日開催の研究セミナーでは、招聘研究員の進行中の研究プロジェクトについて、研究課題の社会経済的意義、研究課題の理論的背景ならびに理論的概念のレクチャー、さらに研究仮説の構築といった内容について報告がなされ、出席の社会人大学院生、本学教員から活発に質問が提起され、有意義なディスカッションとなった。消費者行動やマーケティングといった領域は本研究科の社会人大学院生にとって最も関心の高い領域の一つであり、また先端的な技術が消費者の意識や行動にいかにか影響を与えるのかというトピックの新鮮さもあり、社会人大学院生は非常に熱心に報告内容を傾聴していた。

また、3月4日のセミナーでは、国際的なジャーナルに論文を投稿し、掲載されるにはどのようにすれば良いのか、留意すべき点はどのような点か、何が重要であるのかといった内容について、招聘研究員自身の経験も取り入れつつ極めて実践的な報告がなされた。トピックが研究者向けであったことから、参加者の多くは本学教員ならびに博士課程の大学院生が中心であったが、それだけに関心の高さは著しく招聘研究員と参加者の間で自由に活発な議論が交わされ、相互の情報交換という点でも有意義であった。

こうした研究セミナーならびにワークショップに加えて、数回にわたって社会人大学院のあり方やそこでの教育プログラム、今後の共同研究プロジェクトについての非公式な意見交換も行われた。招聘研究員は、フランスを本拠地としてヨーロッパに数箇所のキャンパスを擁するビジネススクールに勤務しており、そこでのプログラムや学生の実態について貴重な情報が得られた。また本研究科のプログラムとヨーロッパのプログラムとの違いや、今後の開発が期待されるプログラムとして Executive MBA プログラムについても率直な意見交換がなされた。今後の共同研究プロジェクトの進展のみならず、教育プログラムの交流も視野に入れた関係構築の足がかりを築くことが出来たと考えている。

＜研究セミナーの様子＞



（特記事項） 本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動を行った場合は、下記にその内容を記載してください。